



# 暑中お見舞い 申し上げます。

豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結いのまち

大崎町長 東 靖弘

連日厳しい暑さが続いておりますが、皆さまにはお元気で過ごすごのことお喜び申し上げます。

ここ数年、集中豪雨が頻繁に発生しており、本町においても昨年4月30日には記録的な集中豪雨により、床上・床下浸水、土砂崩壊などの大きな災害が発生したことは記憶に新しいところでございます。

今年の梅雨も、度々集中豪雨に見舞われました。幸いにして大きな災害は発生しておりませんが、7月8日の集中豪雨の際には、本町でも初めて『避難準備情報』を発令しました。『避難準備情報』とは、「要援護者等、特に避難に時間を要する方は、避難場所への避難を開始し、それ以外の方は、避難の準備を始めてください。」という要請です。今後も災害の発生が予想される場合には、皆さまの生命を守るため、早めに発令することがありますので、ご理解とご協力をお願いします。

さて、本町は、今年1月1日に町制施行80周年という記念すべき節目の年を迎え、去る2月7日に町制施行80周年記念式典を開催しました。式典では、森山前農林水産大臣、尾辻参議院議員、野村参議院議員をはじめ、約300名のご臨席を賜り、これまで町政発展にご尽力いただいた方々、関係者の皆さまに心からの敬意と感謝の意をお伝え

したところでございます。

この80年という歴史は、『より良い大崎町』を創ろうという想いを持つ多くの先人たちのご尽力と町民の皆さまの熱意によって築かれたものであります。本町は、産業の振興、教育や福祉の向上、人々が暮らしやすい生活環境の整備など『明るく住みよい大崎町』の構築に向かって、今日まで邁進し続けてまいりました。今後も90周年・100周年に向けて、大きく飛躍するために、さらに努力し邁進していく所存でございます。

また、国際情勢に目を向けてみますと、世界規模での経済金融不安により先の見通せない状況であり、国内でも、構造的な問題であります少子高齢化や回復傾向であった景気動向の不透明さなどのさまざまな問題を抱えております。

こうした中で私は、昨年一年間を『大崎町創生元年』と位置付け、本町の未来に投資していく新たなスタートの年として、ふるさと納税の推進、企業誘致、民間資本を活用した住宅政策などに取り組んでまいりました。

この結果、町内産業の経済的な底上げ、雇用の促進、若者が定住するための土台づくりができたものと認識しております。

本年度からは、昨年策定しました『総合戦略』を着実に実行し成果を挙げる

ことはもちろんですが、国が掲げた地方創生の流れの中で、新たな事に挑戦していく時であると思っております。

国が掲げた地方創生は、「熱意や意欲のある自治体に対しては、協力を惜まず、共同作業で取り組んでいくが、何もしない自治体に対しては、国も何もしない。」という方針で進められております。この潮流に乗り遅れることのないように、知恵を出し、新たな施策を生み出し、国に対して手を挙げていく必要があります。

町制施行80周年のキャッチフレーズにも掲げたとおり、本町は、まだまだ『大きな可能性が山ほどある町』であると認識しております。この節目の年に、さらなる発展に努めてまいりたいと思っております。

まだまだ暑い日が続きますので、熱中症には十分ご注意ください、ご家族とご一緒に楽しい夏をお過ごしください。ようお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。

平成28年 盛夏

大崎町長  
他職員一同